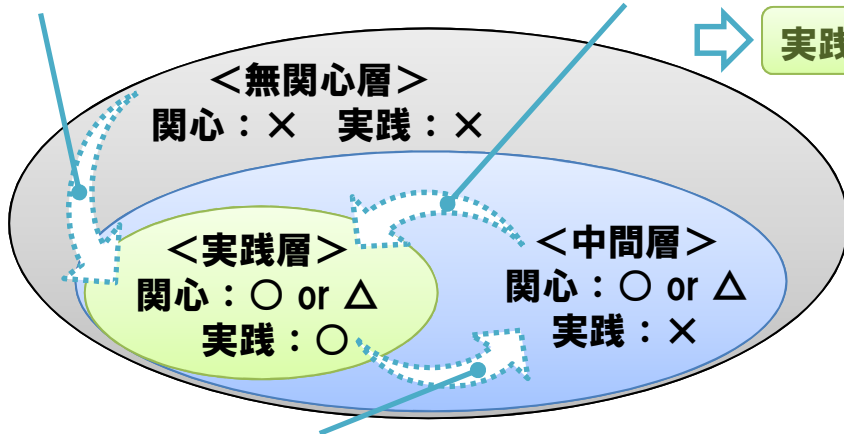


1 環境配慮活動の実践状況に関する考察

①<無関心層> ⇒ <実践層>
一気に実践まで導くのは難しい

②<中間層> ⇒ <実践層>
後押しすれば実践へ導ける



実践層を増やすには？

環境配慮活動に対する
市民の意識を探る

③<実践層> ⇒ <中間層>
関心がそれほど高くない人は
必要がなくなったらやめてしまう

実践層に定着させるには？

2 環境配慮活動に対する市民の意識

※平成25年度市政世論調査結果より抜粋
18歳以上の男女1,500人を対象に調査

設問	割合の高い回答	割合の高い層	対策例
(1)エネルギーのムダ使いをしてしまう理由	細かく気にするのは面倒 : 41.5%	18~39歳	簡単な取組から始めてみる コスト以外のメリットを提示 次世代のための取組という認識
	コスト増を気にしない : 13.6%	借家の人	
	資源はすぐに無くならない : 10.5%	50~69歳	
(2)どうすればムダ使いを改善できるか	メリットが分かれば : 22.3%	18~59歳	取組の効果を明示する きっかけがあれば変えられる 具体的な方法を提示する
	この調査がきっかけで : 20.6%	60歳以上	
	方法がわかれば : 18.1%	18~39歳	
(3)環境配慮活動を実践する理由	光熱水費を削減するため : 34.0%	18~39歳	コストメリットを伝える 環境配慮活動の意義を伝える 取組の輪を広げていく
	電力不足に対応するため : 29.6%	30~59歳	
	当然と考えているため : 15.2%	60歳以上	

3 実践層を増やす・実践層に定着させるための手法の検討

「誰が？」「どうやって？」「予算は？」などにとらわれずに、自由にアイデアを出し合う

【テーマ】

温暖化対策推進ビジョンで示す以下のアクションに関連する情報提供や普及啓発の方法

- ・次世代自動車や公共交通機関等の利用拡大
- ・エコライフの定着・拡大
- ・事業活動によるCO₂削減

例) エコライフの手法として…
朝型・夜型、単身者などの
ライフスタイルに合わせた
省エネ方法の提示

新たな温暖化対策実行計画への反映